

○ 学校評価結果の考察

今年度、学校運営協議会と協議し生徒、保護者への質問内容を大幅に見直した。質問内容により昨年度のデータがなく比較ができない項目もあるが、ほとんどの評価項目で昨年度の調査結果と同等又は高い評価を得ている。個々の活動については、以下のように分析できる。

(1) 基礎基本を身に付け、活用する生徒

「勉強がよくわかるように教えてくれる」と答える生徒が 92%をこえ、前年度以上に高い数値を示している。しかし、「勉強がわからない時には先生に聞くことができますか」という項目に対しては学年を追うごとに上ってはいるが、学校全体として 32%の生徒が（あまりそう思わない・思わない）と答えており、相談ができる機会の確保や教師側の受け入れ態勢を整えていくことが必要である。

保護者アンケートでは、「学校では、基礎的な学力が身に付くようなわかりやすい授業をしている」の項目で（あまりそう思わない・思わない）と答えた保護者が 21.6%に上った。これについても基礎基本の定着を目指し更なる授業改善に努めていきたい。

(2) 人との関わりを通して育つ生徒

規範意識が高く、しっかりとしたあいさつのできる生徒が多い。今年度も「学校全体として、さわやかなあいさつが友達や先生にできていますか」という項目に（そう思う・大体そう思う）と答えた生徒が 93%に達した。

また、学年、学級での授業や学校行事等を通じ、他者との関わりを大切にしながら、良い集団作りが行われている。そのため、「あなたのクラスは楽しく、教室は安心できる場所ですか」という項目に（そう思う・大体そう思う）と答える生徒が 88.5%に達している。しかし、（あまりそう思わない・思わない）と答える生徒が 11.5%いるため、今後も学級への所属感を高める手立てを図っていくとともに、生徒個々とのいっそうのコミュニケーションを図り、いじめなどへの早期対応の継続に心掛けていきたい。

(3) 命を大切にする生徒

新型コロナウイルス感染症対策を含め、保健週間や防災訓練、日々の交通安全指導などの機会を通じ、健康や防災への意識をもち、健康で安全な生活に対して前向きに取り組むことができた。また、部活動の自主選択制や活動時間に制限がある中で、部活動に熱心に取り組む生徒が多い。